



スルメイカ (秋季発生系群)

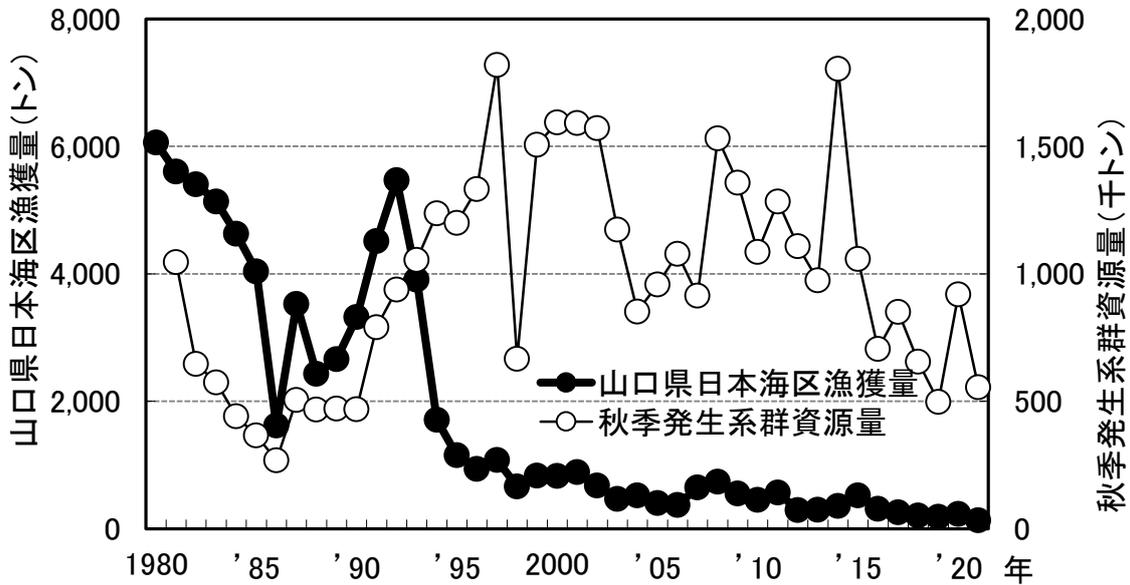


図 山口県日本海区スルメイカ漁獲量 (漁業・養殖業生産統計年報) 及びスルメイカ秋季発生系群資源量 ((国研) 水産研究・教育機構 資源評価報告書)の推移

【漁業】スルメイカは主にいか釣りにより漁獲されるが、山口県ではケンサキイカを主な漁獲対象としており、近年スルメイカを狙った操業はほぼ無くなった。10～12月には秋季発生群の南下群、1～3月には冬季発生群の南下群が漁獲される。また、春季には秋季発生群の幼いか(イキレ)が定置網で混獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は1980年の6,058トンピークとして急激に減少し、1986年には1,620トンになったが、1987年以降は増加に転じ、1992年には5,470トンに達した。その後は再び急減し、2022年の漁獲量は154トンとなった。

【資源状態】資源量は、2016～2019年漁期は低い加入が続き、資源量が減少し、2020年漁期に一旦は増加したものの、2021年漁期以降再び減少し、2023年漁期には21.4万トンと推定された。

2022年漁期の親魚量(SB)は、最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(SB<sub>msy</sub>: 目標管理基準値)を下回った。また、2022年漁期の漁獲圧(F)は、MSYを実現する漁獲圧(F<sub>msy</sub>)を下回った。親魚量の動向は横ばいと判断された。

2022年漁獲量(万トン)	MSY(万トン)	2022年親魚量(万トン)	目標管理基準値(万トン)	限界管理基準値(万トン)	禁漁水準(万トン)
4.9	27.3	19.4	32.9	18.9	3.0